

里山コモンズクラブ通信 2015秋・冬号

みなみやま

Satoyama Commons Club News MINAMIYAMA

NPO
南山の
自然を
守り育てる会

http://www.ina-mina.com

●お問い合わせ先

発行・責任者

090-6658-7611(梁川)

編集・責任者

090-3579-4537(坂本)

里山コモンズクラブ通信「みなみやま」はNPO法人南山の自然を守り育てる会の活動案内です。

「南山・秋の自然観察会」 2015年10月18日



10月18日、南山にて「秋の自然観察会」として、参加者25名と秋の里山を歩いた。

コースはまず武蔵野線トンネル脇から南山に入り、坂を上る。この春に竹の子堀をした竹林付近を過ぎると切り開かれた土の地面と、開発を免れた里山が対照的に見える。開発地域の向こうには、「南山ビレッジ住宅」予定地に隣接する、奥畑自然公園の緑も見えた。

そこから進み、秋の草花、カントウヨメナやヤクシソウ、コウヤボウキなどを観察しながら尾根の方へ。尾根には草刈り、椅子の設置など「里山プロジェクトみなみ」が管理している林があり、一休みさせて頂いた。近くには大きなスズメバチの巣があったが、ハチは留守(?)の様子で巣を近くから見られた。



さらに道を進みながら、参加の子ども達とどんぐりを探すと、クヌギ、コナラ、シラカシなど大小様々なものが見つかった。他の木の実では、赤いガマズミやカマツカも綺麗に色づき、橙色のカラスウリの中には結び目型の種が見つかった。これは「金運のお守り」と教えると、持ち帰る方も何人もいた。

集結地の妙見尊で、夏に行われる「蛇より祭」の行事も紹介して一応の終了となった。ここから先は、行事に使われ石段に横たわる



通称「一の森」から薄葉谷戸越しに、駒沢女子大学を望む。天気によければ丹沢山塊の向こうに富士山を見る事ができる。

茅で燃った「蛇縄」を見ながら山を下りて帰る方々と、更に尾根を進んでNPO「いなぎ里山グリーンワーク」により管理されている「めぐみの里山」まで足を伸ばす健脚組に分かれた。

健脚組は、ちょうど作業の為に居られた「里山グリーンワーク」の方々のご厚意により、「めぐみの里山」の広々とした畑やイベント舞台のある林斜面、そして炭焼き小屋も見学させて頂いた。

天気も良く、参加者の皆さんも残された里山を楽しんでくれたようであった。

(桜井)

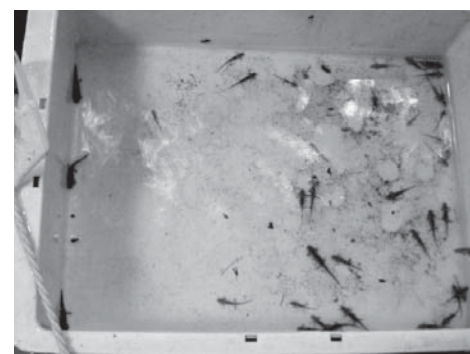
トウキョウサンショウウオ 保護活動の報告

南山のトウキョウサンショウウオは、崩落防止などの工事により消失する予定の原産場所より、自然公園として保護されるエリアに移殖が進められている。そこでは2か所の仮設池に、組合により産卵期間給水が行われ、水質などを維持。移殖開始から、今年で7年目になる。

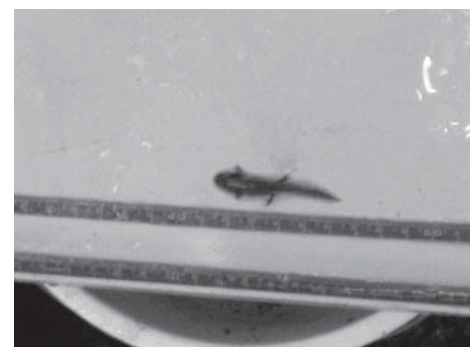
本年度のトウキョウサンショウウオの保護活動は、生物調査会社担当者に「南山の自然を守り育てる会」有志を交えて3月より調査を開始。7月まで合計9回行われた。

仮設池では、3月調査時点から親の姿や卵のうが多数見られた。5月半ばまで産卵が確認され、孵化した幼生は6月初めには計250匹以上が確認された。これらは共食いなどで淘汰されて、成熟・上陸するのはごく一部となる。6月調査で上陸直後の成体もみつき、7月末には成長の進んだ上陸間近の者も含め約60個体の幼生が見られた。

本年度は昨年度に続き、原産場所からの卵のうなど移殖はされず、保護区域で成熟した親の産卵のみで繁殖していたと考えられる。ただし、現在の池はあくまで仮設の小型のもので、給水が止まれば水質が悪化するなど管理が欠かせない。近い将来、永続的な繁殖のための池や水源が必要と考えられる。しかし、現地は水源が乏しい地形で、また透水性の土質とされている。降雨時に水たまりが生じるが、降雨が無いと数日で消失した。これからどうすべきか、具体的計画はまだこれからだ。(桜井) ※なお原産場所については1月より産卵が始まっていた。



幼生は外鰓が確認できるのが特徴





コラム ☆ オオタカ調査をしています



アオゲラ
全長29cm。体上面の羽衣、尾羽や翼は黄緑色で、
和名(緑も含めた古い意味での青)の由来になっている。

私たち「南山を守り育てる会」では2月上旬から8月上旬にかけて南山に生息しているオオタカ調査を行っています。オオタカは生態系の頂点にいる鳥でオオタカが生息しているということはその地域が自然が豊かだということを感じます。

東京都の指導のもと専門の調査機関とともに定点2か所での観察と追跡調査を行っています。高い塔の上でジューと獲物を待ち小鳥を空中で捕える姿をみるができます。

最近ではキツツキの仲間であるアオゲラを食べた痕がありました。こうした保護の結果、今年を無事にヒナが巣立つことができました。(木場)

奥畑ヴィレッジの現場

エリアマネジメントの準備段階で設置した奥畑谷戸公園予定のウッドデッキから開発中の南山を眺めてみる。

南山の開発は着々と進んでいる。南山小学校が4月開校し、9月に地域の方達も参加した第一回運動会も開催された。



南山小学校 第一回運動会の様子



ウッドデッキから関東平野を望む

10月には「公営 稲城・府中メモリアルパーク」もオープンした。内覧会には沢山の皆さんが訪れた。来春には大型スーパーやオコもオープンする。

二十年近く続いた竹の子掘りを行っていた竹林もとうとう消滅してしまった。

眺めながら、もはやかつての南山の風景を思い出すのに苦労する程、景観も状況も様変わりした。

私たち「南山を守り育てる会」も劇的に変わりゆく南山だが会のテーマにぶれず、柔軟な考えのもと関わってゆかねばならないのだろう。

奥畑ヴィレッジは造成工事の関係から、造成完成期日が変わっており、中々計画どおりのコモンズ計画を進めることができません。しかしながら、当会としては今迄同様、根気強く取り組んでいきますので、ご興味のある方は是非活動に参加ください。(坂本)

“新会員の仲間募集”

里山保全活動やオオタカ、サンショウウオの希少種調査など、
会員として一緒に活動しませんか？

場所: 稲城市城山体験学習館 学習室 毎月第1日曜日 13時から運営会
入会申込先: NPO南山の自然を守り育てる会
事務局: 梁川(やながわ) 携帯090-6658-7611
メールアドレス minamiyama@gmail.plala.or.jp

会報記事
提供のお願い

普段、何かと忙しくて会活動にあまり参画できない!! でも少しは会に貢献したい!! そんな会員の方はおられませんか?
私たちの会報を皆さんの力でもっと充実させませんか? 何でも結構ですので、記事の提供をお待ちしています^^ 広報担当 坂本